

畑日記

中江 聡

1月に降った大雪が溶けきらずに道端に残っていた2月前半。畑でも、陽の当たらない箇所に積もった雪は、しばらくの間、山になったままの状態でした。そんなわけで、いざ、「たたみ」（発酵途中の剪定ごみ）を切り返そうと思ったり、赤土をふるおうと思ったりした時には、それらはもう雪というより氷。それもガッチガチの氷の塊になっていました。そうするとスコップくらいでは、どうにもなりません。倉庫からクワを持ち出し、カー杯振り下ろして、ようやく氷の塊が崩せていきます。それらを崩し終えたと思ったら、今度は赤土まで凍ってしまっていて、ひと塊になっている始末。それもクワを使って、少しずつ掘り出していき、庭で陽に当てて溶かします。



赤土をほとんど、庭に移動するのに午前中いっぱいかかりました。まあ、それをやってのけたのは、私ではなく、葦の会の肉体派、米重さんなのですが。同じく、凍ってしまった「たたみ」を掘り出してくれたのは、野尻さんと田沢さんです。野尻さんが砕いて、田沢さんが運ぶ、を何度も繰り返して、どうにか「たたみ」も使える状態になりました。雪から掘り出してまで、どうして土や「たたみ」が、必要になるとかいうと、この時期から春咲きの花の種まきやポット上げを行う為です。そうして、畑作業は、ポット上げラッシュとなっていきました。



まず手掛けたのが、マリーゴールドやペチュニアです。入職して、初めて畑に行き始めた時に咲いていたのがこれらの花でした。あれからもう少しで1年か～早いな～なんて思いながら、私もメンバーと一緒にポット上げを行っていました。しかし、この数日後、あんなことが起きようとは……。連日最低気温が-4度となる異常な寒さが続き、ポット上げをしたマリーゴールドが寒さにやられてしまいました。その為、急きょハウス内やポット上げした花たちを冷やさない対策に追われる事になりました。ハウスに隙間風が入らないようにビニールを継ぎ足して塞いだり、ポット上げしたマリー

ゴールドには、マットを敷いたりして対応しました。寒さや風に当たらないようにする布（寒冷紗）もすべて使い切ってしまう、2回も追加で購入するほどでした。そんなこんなで、2月後半、ようやく寒さ対策も落ち着いてきました。この後は、ポット上げをしたものを並べたり、その場所を作ったりするのに追われる事になるのでしょうかね～。ポット上げと言えば、増田さんがジニアのポット上げを上手に行ってくれました。いつにも増して真剣な表情で、とても集中して行っていました。

最後に、畑や花壇のバラの剪定を行いました。私も榎崎さんに教わりながら初めて行いました。バラの棘って、本当にすごく痛いんですね！これから芽が出てきたら、さらに調整をするのですが、自分が手掛けたバラが、今後どのような姿を見せてくれるのか、今から楽しみです。

編集後記

「春は名のみ～の風の寒さや～」の歌の通り、寒い…寒い！でも、おかげで旅行では冬景色満喫！！最後にいちご狩りで春を感じてきました(*^_^*) 寒いだけに春が訪れた時、きょううれしさもいつも以上に感じられるでしょう(*^^)v 今のうちにしっかり根を張って、春の訪れとともにメンバー、職員共に新しい芽を力強く出していきましょう！ さて最後にちょっとお勧め本の紹介です。芥川賞受賞作「おらおらでひとりいぐも」をもう読まれたか？ 方言のリズム良さ、心地よさ、笑えて、そして子供との関わりや自らのこれからの生き方を考えさせられます。子育てを終えた？年齢の方にお勧めです。(^-) (池田)